

# 大阪農民会館だより

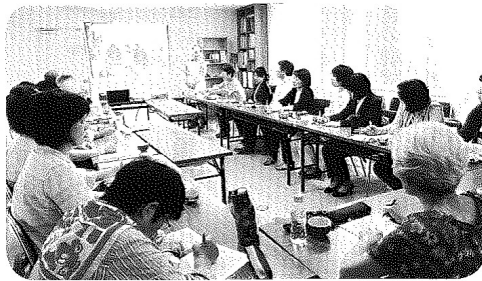
2016年  
7月25日(月)  
第151号  
発行人  
田中 豊

発行所／(一)大阪農業振興協会 〒536-0014 大阪市城東区鳴野西2丁目5-22 農民会館 ☎(06)6965-3900 FAX(06)6965-2901

## 食と農、学び、交流し行動する消費者



大阪から食と農を守る！6月24日開かれた食農大阪府民会議は結成30周年の総会(上)。下は「なにわの伝統野菜」について学ぶ大阪食糧・農業問題研究会例会、報告は森下博士



右上は、米屋さん・消費者の田植え交流会(千早赤阪村)下は6月はじめの田植えから1月余、すくすく育つ稲、これからの天候は？作柄は？…

- 豊かな学校給食を求めて ..... 2
- 注目すべき東大阪市の「ファームマイレージ」運動 ..... 4
- 資料のページ/ファームマイレージ<sup>2</sup>・ことしは「国際マ×年」..... 6
- 会館短信/食べものこと、おすすめの一冊、法律・税金Q&A ..... 8

**無料 法律・税金相談**  
随時受付  
連絡先  
大阪農民会館  
☎06-6965-3900

### 食へのこと 「タマネギをタネから育てて栽培してみましよう」

家庭菜園での野菜づくりの⑧  
タマネギは苗を購入して栽培される方が多いですが、一度タネから育てる栽培にも挑戦してみませんか。  
早生(わせ)(品種はソニック、チャージなど)は9月15日頃、中生(なか)は(ターボ、OKなど)は9月25日頃、晩生(おくて)は(ネオアース、アトーンなど)は9月28日頃にタネをまきます。  
(早生、中生、晩生によってタネまきの時期が違いますので、注意してください)タネをまくところは排水の良い、やや砂の多いところを選び、厚まきにならな



「小さい農業で稼ぐ」  
加工・直売・幸せ家族農業  
30アール 1200万円  
1200万円  
本体価格17000円

著者は四七歳。石川県能美市で生まれ育つ。大学卒業後パーテナダー、ホテルマンなどの仕事をした後帰郷。一九九九年に菜園生活(風采)を起業。30アール(三反)の畑で無農薬野菜を栽培する。季節に合わせた野菜のセットや漬物などを直販。また味噌づくり教室や漬物教室などを開催。1200万円の売り上げのうち600万円が利益として残る。600万円あれば家族五人一年間暮らしていける。無理をすればもっと売り上げを伸ばすことも可能であるが、「小さいからこそ幸せになれる」というミニマム主義を実践。家族の日々の幸せな暮らしを理想にしている。この本は今年2月の発売以来四回の増刷をしているがまだまだ波紋が広がっている。ネット上では二世紀の宮次賢治、一人農工商連携、一人6次産業ビジネスと評する人もいる。  
農文協近畿支部 野田道也

### 法律・税金 Q & A

◆消費税について、もう一度確認を  
税率の引き上げは延期されましたが、消費税の簡易課税制度の中で、個人事業者は28年1月1日から不動産賃貸業について第5種事業から第6種事業に変わつたのは皆さんご存知のことと思います。みなし仕入率が50%から40%に減らされました。  
事業用の不動産貸し付けなどを行っている人はこの影響を受けることになり、事業用不動産の課税売上が1000万円に対し、8万円増税になる

◆消費税について、もう一度確認を  
税率の引き上げは延期されましたが、消費税の簡易課税制度の中で、個人事業者は28年1月1日から不動産賃貸業について第5種事業から第6種事業に変わつたのは皆さんご存知のことと思います。みなし仕入率が50%から40%に減らされました。  
事業用の不動産貸し付けなどを行っている人はこの影響を受けることになり、事業用不動産の課税売上が1000万円に対し、8万円増税になる

◆消費税について、もう一度確認を  
税率の引き上げは延期されましたが、消費税の簡易課税制度の中で、個人事業者は28年1月1日から不動産賃貸業について第5種事業から第6種事業に変わつたのは皆さんご存知のことと思います。みなし仕入率が50%から40%に減らされました。  
事業用の不動産貸し付けなどを行っている人はこの影響を受けることになり、事業用不動産の課税売上が1000万円に対し、8万円増税になる

◆消費税について、もう一度確認を  
税率の引き上げは延期されましたが、消費税の簡易課税制度の中で、個人事業者は28年1月1日から不動産賃貸業について第5種事業から第6種事業に変わつたのは皆さんご存知のことと思います。みなし仕入率が50%から40%に減らされました。  
事業用の不動産貸し付けなどを行っている人はこの影響を受けることになり、事業用不動産の課税売上が1000万円に対し、8万円増税になる

農業・農村・農民 についての「ちよつと」良い話

vol.10

注目すべき東大阪市の「ファームマイルージ<sup>2</sup>運動」

農業・農村問題研究者 橋本卓爾

ている「ファームマイルージ<sup>2</sup>運動」です。これは、「一見すると地産地消推進運動と捉えることもできますが、その目指すところは奥深いものがあります。なかなかの優れたものです。英知と工夫が溢れています。

4つの願いが凝縮

優れたものと言った第一の理由は、市民の願いを大切にしていることです。

「目の届く所で育つ野菜は安心だわ」(主婦)、「おっちゃん、おいしい野菜作ってなあ」(子ども)、「たくさん食べてやーまた、頑張ってるから」(農家)。ファームマイルージを紹介したパンフレットの表紙に載っている主婦と子どもと農家の会話です。短い会話ですが、ファームマイルージの趣旨をうまく伝えています。

安全・安心で新鮮な野菜を家族に食べさせたいという主婦の願い、美味しい野菜をたくさん作ってほしいという食べ盛りの子どもの願い、頑張ってる育てた農産物を一人でも多くの市民に食べてほしいと

いう農家の願い、これらの願いを実現させたいという行政や農協関係者の願い。ファームマイルージには4つの願いが凝縮されています。

農協の農産物直売所などを活かす

第2の理由は、農協の農産物直売所や支店での朝市を活用し、野菜などの流通を変えたことです。市内で生産された野菜などを市民が購入・消費するためには、卸売市場・スーパーマーケット中心の流通システムでは無理があります。そこで考えたのが市内に5か所ある農協の直売所と9の支店で開かれています。朝市の活用です。そこに行けば確実に市内産の農産物を購入することができます。だんだん遠くなりつつある食べ物の生産の場と消費の場(市民の台所)を近づけることができます。市内の農業と市民を結びつける拠点にもなります。「JAグリーン大阪」「JA大阪中河内」ここにありです。

エコ農業の普及・拡大

優れた点の第3は、安全・安心

入額で7000円相当)貯まると300円相当の農産物と感謝状がもらえます。感謝状が10枚貯まると表彰状と記念品が贈られます。航空会社のマイルーシプログラムを思い出してください。これは、航空会社が自社の利用者、搭乗距離に応じて様々な特典を与えるものですが、東大阪では野菜を買ってマイルージが与えられるのです。ある程度マイルージを貯めたら市内産の農産物が貰えます。おまけに、感謝状や表彰状も。楽しくて実利的なシステムではありませんか。市民も直売所に足が向きます。これが、優れた点の4点目です。

ここに農地が有るのかわからない現状です。

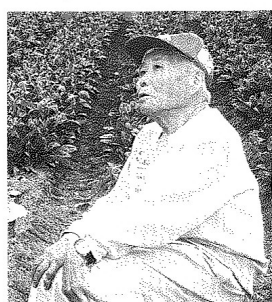
この貴重な農地を何とか残したい、残しながら有効に利用したいという想いを実現するためには農家や行政の頑張りだけでは十分ではありません。広範な市民の協力や支援が不可欠です。市民に市内産の農産物をどんどん購入してもらいマイルージを貯めていたたく、このことによって市内の農地が守られることを目に見えるやり方で実施しているのが「ファームマイルージ<sup>2</sup>運動」です。5番目の優れた点です。

パンフレットの一文です。「1㎡あたりで、小松菜・トマト・キャベツを作ると年間であわせて11kg程度が収穫できます。毎日350gの野菜を食べれば、1年で「350g×365日=128kg」になるので約7畳(11・6㎡)の畑の野菜を食べ、野菜が育つ畑を守ることがができます」と。具体的数値を示し、市内の野菜を食べることが、市内の農地を守ることにつながっていることを分かりやすく説いています。(P6資料のページ参照)



の野菜作り、環境に優しい農業の推進に「ファームマイルージ<sup>2</sup>運動」を運動させたことです。安全・安心な農産物や環境に優しい農業は、消費者のみならず生産者の望むところです。しかし、掛け声だけでは前に進みません。東大阪市では「大阪エコ農産物認証制度」に加えて市独自の認証制度を整備し、できるだけ多くの農家が安全・安心の農産物づくりに取り組めるように支援するとともに、その農産物を市民が手に入れることができるよう工夫しています。

そのため、認証シールを認定エコ農産物者に無償で配布し、そのシ



しなやかに都市農業を守り、育て、発展させる取り組みを

以上、東大阪市の「ファームマイルージ<sup>2</sup>運動」について紹介しましたが、その特徴は出来ることを、楽しく、皆で取り組んでいることです。都市農業を守り、育て、発展させるためにはこうしたしなやかな取り組みが必要不可欠です。昨年「都市農業振興基本法」が制定され、今年5月には国の「都市農業振興基本計画」が策定されました。よつやく、都市農業の振興が動き始めました。都市農業を抱える都府県や市町村が地域の実態を踏まえながら創意・工夫に溢れた対策をどのように実施していくかが試されています。

ールを添付した農産物を市内14か所の直売所や朝市に出荷するようになっています。市民は、そのシールを貼った農産物を見て、これは安全・安心の農産物だと簡単に判断できるのです。この制度によって東大阪市では食の安全や環境に優しい農業を目指す「エコ農産物」が大きく増加しています。エコ農業が広がっています。

貯めたら貰える

知恵は、まだまだ続きます。市民は、認証シールが貼られた農産物を購入し、そのシールが48枚(購



農地保全の「見える化」市民と共に農地を守る

ここで、気になることは、マイルージの斜め上に2乗がついていることです。これは、面積、そのです、農地面積に注目してもらうための工夫です。東大阪市では現在234ヘクタールの農地があります。市誕生(1967年)の頃に比べると大幅に減少しています。市役所の屋上から眺めてもど